

## 5 こころのユニバーサルデザインについて

### 5-1 こころのユニバーサルデザイン

だれもが快適に利用できる施設を整備するには、ハード面を整備するだけでなく、ソフト面の対応も必要である。

本指針では、ソフト面の対応として、施設利用者がお互いのことを思いやる、譲り合う、助け合うということを「こころのユニバーサルデザイン」として位置付けている。

#### ◆だれもができるこころのユニバーサルデザイン

視覚障害者誘導用ブロックは、視覚障害者が一人で歩くための道しるべである。そのため、右の写真のように、ブロックの上に障害物があると視覚障害者の通行の妨げになるどころか、転倒や事故の原因となることさえもある。

また、荷物をたくさん持っている人やベビーカーを押している人は、手がふさがっていたり、荷物等で足元がよく見えない場合がある。そのため、出入口の扉を開けたり、エレベーターのボタンを押したりすることが困難である。

このほか、妊婦やペースメーカー・オストメイト利用者など、外見からではその人の身体状況が分からない人がたくさんいる。

このように、公共施設は様々な人が利用することを念頭に置き、施設利用者それぞれが、いろいろな立場の人の気持ちになり、思いやる、譲り合う、助け合うという「こころのユニバーサルデザイン」が重要である。

そして、この「こころのユニバーサルデザイン」に取り組むことで、施設整備ではカバーしきれない問題を乗り越えることができ、だれもが快適に施設利用できると考えている。



【ブロック上の自転車】

まずは、困っている人を見かけたら積極的に声をかけ、また、困ったなと思ったら周りの人に声をかけることが、人にやさしいまちを実現するための第一歩である。



手伝いが必要なのかどうか、また、どんな手伝いをしたらよいか、本人に確認してから、安全に無理なく手伝う。



一人では難しいと思ったら、周りの人達にも声をかける。

#### ◆市の取組み

今後、市では、市民向けのユニバーサルデザイン講演会の開催や、小学生向けの啓発冊子を作成するとともに、職員に対しても研修会を行うなど、積極的に「こころのユニバーサルデザイン」の普及を図ることとする。

そして市民のだれもが、この「こころのユニバーサルデザイン」を実践することで、だれもが安全・安心で快適に暮らせるまちになると考える。